

エッセー 育む

自然が



子どもの感性を豊かなものが最も重要なものです。ものにするためには、幼「感性」を辞書で引く児期の自然の中での遊びと、「美や善などの評価が重要なことは今までも判断に関する印象の内包お伝えしました。私は自的の意味を知覚する能然や命、人と接する上で力」と出てきます。私な考え方の方の根幹を「感性」に一言で表すと「ドキ」という最も人間らしい感ドキする能力」です。覚が彩っていると考えて新しい人や生き物、考います。確かに人間は理え方などに出会ったと性という頭で考えて正しき、何か心の中で「ドキ」く行動する感覚も持ってドキ」しませんか。新しいですが、理性の前に人いものを感じられるのの持つ豊かな感情と、そか、見過ごすのか、また、の原動力となる感性こそ見よつともしないのかは

子どもと一緒にドキドキしよう



自然の中でさまざまな発見をする子どもたち

人それぞれ。感じるためける大人の行動だと覚えには自分の中に、「感じてください。

る器」と「受け入れる寛あなたはその理解しる器」。「自分なりに理解していないものを子どもに示されたとき、何か教える能力」が必要になつてきます。よく「器の大きい人だ」と表現されるのは「新しいものにドキドキできて楽しめる人」なのだ、私は考えているのです。

さて、自然の中は常に新しい発見があり、生き物の命に出会える素敵な空間です。子どもたちと森を歩いていると、目は輝き、動きは俊敏になり、子どもそのものも変化してきます。そして自然のドキドキは子どもに中へ一緒に入ったら、次

大切にすることが、子どもがさまざまな生き物を発見し、命そのものとの出会いを学んでいると

き、それを受け入れてあ然の家所長 田中誉人

(尼崎市立美方高原自